

グラーツのヨハネス・ケプラーへの書簡 I^①

(一五九七年八月四日、パドヴァ)

この上なく博識な方よ、パウル・ホンベルガー氏^②をとおして私に送られたあなた様の本を、数日前どころか数時間前に受け取りました。そして同じパウル氏がドイツへの彼の帰還について私と話をしたときに、もしも受け取った贈り物についてこの手紙であなた様に感謝しなければ、疑いなく恩知らずということになるだろうと私は考えたのです。ですから、私をこのような切っ掛けであなた様の友人のうちに呼び入れてくださったことに感謝しております。さらに重ねて、なまじうるかぎりの感謝をいたしております。

本については、今までに序文以外はまったく見ておりません。しかしながらこの序文からあなた様の意図はわずかなりとも理解しました。さらに私には、真理を追究するにあたってこれほどの仲間が、そしてこれ

ほどに真理そのものの友である仲間がいることを、疑う余地なくこの上なく嬉しく思うのです。事実、嘆か
わしいことに、真理を熱心に求める者で、誤った哲学的探究の方法など受け入れられない者は非常に稀にしか
ないのですから。しかし今は私たちの時代の悲惨さを嘆く場合ではなく、真理の確証となる非常にすばら
しい発見についてあなた様に祝意を述べる機会なのですから、ただ以上のことだけを付け加えるとして、その
中に非常にすばらしいことが見つかるだろうと確信しているのです、冷静な心であなた様の本を読みとおすこ
とを約束いたしました。さらには、私は何年も前からコペルニクスの見解に与よび、加えてその立場
にしたがうことで、公認の仮説によつては疑いなく説明不能である多くの自然現象の原因を見いだしており
ますので、なおさら喜んでそういたしました。私は論証も対立する根拠に対する反駁も数多く書き上げて
いるのです。それにもかかわらず、これまでそれらを公表する勇氣はありませんでした。私たちの師であ
るコペルニクス自身の運命に恐怖を覚えたのです。彼は一定の人々の間では不朽の名声を獲得したとして
も、それにもかかわらず、数えきれない人々（愚か者の数は実際こんなに多いのです）の間では、滑稽で
拒否すべきものと思われたのですから。もしも、あなた様のような人がもつとたくさんいれば、きっと私
の意見を公表する勇氣が出るでしょうが、そうではありませんので、このような活動は控えるとしませ
よう。

時間のなさとおなた様の本を読みたい欲求とに心かき乱されているので、この書簡を終えることにします。
そして私がおなた様を非常に大切に思っており、何ごとであれ、いつでもあなた様のお役に立つつもりであ
ることを表明いたします。お元気で、そしてこの上なく楽しいあなた様のお便りを面倒にお思いにならずに

私にお送りください。

一五九七年八月四日、パドヴァから送ります。

あなたの様の栄誉と名声を誰よりも愛している

パドヴァ大学数学者

ガリレオ・ガリレイ。